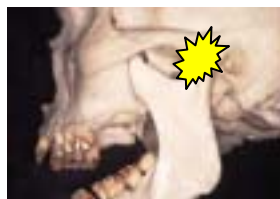


### 気になる現代病

### 顎関節症



アゴの関節は、他の関節と違い、左右の関節が一对になって機能する特徴を持っています。ほおづえや食いしばり、歯ぎしりの癖などがきっかけで、左右の協調性が失われ、関節内部のコロの役目をしている関節円板や関節、アゴを動かす筋肉などに様々な疾患を起こしてしまいます。

#### 顎関節症の3つのパターン

##### 1、顎関節に問題が生じるパターン

特に口を閉じるときに、下あごが後方に押されやすい歯並びの人は、関節円板や関節に負担がかかります。またそうでない人も、直接的な外力、歯ぎしり、くいしばり、噛み癖などの負荷で関節円板がずれてしまい、クリック音や時には開口障害を起こしてしまいます。

##### 2、筋肉に痛みを生じるパターン

ストレス、口内炎、噛み違え、片噛み等がきっかけで、アゴの周りにある咀嚼筋に筋肉痛が生じます。ストレスは、どのケースでも症状を悪化させる原因になります。

##### 3、全身疾患と関係するパターン

左右の関節の機能や咀嚼筋の筋力の不調和は、頸椎（首の骨）胸椎（背骨）腰椎（腰骨）のズレを生じます。このことにより、自律神経やその支配臓器に二次的な障害を起こすこととなります。

#### 顎関節症の発病パターン

関節円板が正常な位置からわずかにズレ、アゴの関節に問題が生じつつあるこの時点では、自覚症状がまだないが、放っておくとストレスなどがきっかけとなり、発病する

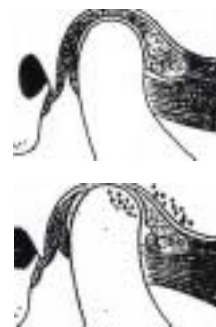


関節円板がさらにズレると、口の開閉時に「ポキン」「コキッ」というクリック音がします



関節円板のズレ激しくなると、急に口が開かなくなる『クローズドロック』が起こります

関節円板は、変形や亀裂を生じ、関節事態の変形が起こります



#### 診査方法

##### 1、クローポールセン筋診断

咀嚼筋、顎関節の機能を調べます

##### 2、姿勢分析

噛み合わせと全身の関係を調べます



##### 3、ゴシックアーチ（顎関節の運動表記）

関節、咀嚼筋が無理なく運動して噛む位置（中心位）と、日常噛んでいる位置（咬頭嵌合位）とのズレを調べます



表記装置を口腔内に設置し、



機能運動を記録します

咬合器に付着しズレを模型上に再現します



#### 治療方法

アゴの関節自体に問題がある場合、下アゴを前に出して留めるための**マウスピースを睡眠中に使用する**アゴを固定し、保護するギブスの役目をします  
筋肉に痛みが生じる場合、**睡眠中に上アゴ全体を覆うマウスピースを使用します**

アゴに筋肉の動きを減少したり、筋肉の緊張を抑えて筋肉痛を和らげる働きをします